しろやま

病院理念
城山病院は患者さまのために存在します

2023年7月号
医療法人春秋会　城山病院
大阪府羽曳野市はびきの2-8-1
TEL　072-958-1000
編集・発行　情報システム課

Vol. 73

SPECIAL

まぶたが下がり、物が見えにくくなる事はないですか？

加齢性眼瞼下垂症について

形成外科
吉川　彩 医師

眼瞼下垂症とは上まぶたが上がりにくくなって、物が見えにくくなる状態です。これは先天的なものもありますが、多くは加齢など後天的な原因で起こります。「眼科からの紹介で来られる患者様が多く、手術で見づらい症状が解消できます」という吉川医師に話を聞きました。

加齢性眼瞼下垂症の症状と原因

まぶたは上眼瞼挙筋などの筋肉がまぶたの芯となる瞼板を引き上げることで開きます。この筋肉とまぶたは腱膜という組織でつながっていますが、この腱膜が加齢によりたるむことで、まぶたを引き上げることができなくなります。また、皮膚のたるみや筋肉の衰えでもこのような症状が現れます。まぶたが上がらなくなり、瞳孔がまぶたで隠れてしまうと、当然、視野が狭くなり、歩行や車の運転にも支障が出ます。また、おでこの筋肉を使ってまぶたを上げようとするため、額にしわができ、眉毛の位置も高くなります。このため肩こりや頭痛、目が疲れるなどの自覚症状が現れます。

他の原因としては、目を強くこすったり、ハードコンタクトレンズを長期間使用することで発症することもあります。

治療について

治療は局部麻酔での手術です。手術はまぶたで瞳孔の半分以上が隠れており、手術による合併症を発症するリスクのない人に行います。当院では主に次の2つの手術を行っています。

①挙筋前転術（右図）
腱膜を瞼板に縫い付ける手術です。上まぶたの皮膚を切開し、たるんだ腱膜と筋肉を前方に引っ張り、糸で瞼板に縫い付けます。上眼瞼挙筋の力がしっかりと瞼板に伝わり、まぶたが開きやすくなります。

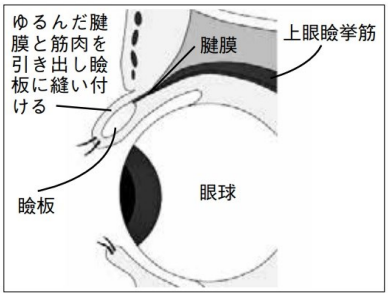
②余剰皮膚切除術
たるんで垂れ下がったまぶたの皮膚を切除する方法です。まぶたの皮膚を切除する場合と、眉毛の下で皮膚を切除する場合があります。まぶたを押し下げる余った皮膚がなくなるので目を開くのが楽になります。

症状によってはこの2つの手術を同時に行い、効果を高めます。どちらの手術も切開後きれいに縫合して閉じ、約1週間後に抜糸します。手術時間は約2時間（両目）で、出血が多いことと術後にまぶたが腫れるため、その処置と安静にしていただくために、1日入院となります。術後、翌日から洗顔、シャワーが可能です。なお、この手術をしても再発することもあります。

気になる方はお気軽にご相談を

まぶたが上がらないことで視野が狭くなるだけでなく、見た目の印象も変わります。気になる方はかかりつけ医の眼科医さんの紹介状を持って外来にお越しください。※当院では初診で診察もできますが、その場合は選定療養費がかかります。

▼形成外科の外来診察時間は、
月～金曜日 8時30分～12時。吉川医師は月・火・木曜担当。



PET-CT装置が新しくなりました。

Discovery IQ 2.0

2023年5月にGE社製「Discovery IQ 2.0」を導入しました。このPET-CT装置は、FDGといわれる放射線核種を静脈注射し、がん細胞を検出して画像化する事が出来る装置です。また、新しく導入したPET-CT装置は、以前に比べて画像の質が向上し、撮影時間も短縮されております。

PET-CT装置は、PET装置単体よりも精度の高い検査・診断を行うことができます。

PET/CT装置について

PET検査とは？

早期のがん発見を目指します

PETはPositron Emission Tomographyの略で、日本語で「陽電子放射断層撮影法」とよばれています。がん細胞は正常細胞と比較して、多くのブドウ糖を細胞内に取り込む性質があります。PET検査ではブドウ糖に放射線を出す元素を組み合わせたFDGという薬剤を注射した後、ブドウ糖がより多く集まるところが全身のどこにあるかを撮影し、がんを発見することができます。ただし、必ずしも全てのがんを発見できるわけではありません。 がんの種類や大きさによって、見つけ出せない場合があります。

PET-CT検査とは？

PETとCT（コンピュータ断層撮影法）が一体型となった装置で撮影することにより、PET単独での検査とくらべて、病変がどの臓器のどの部分に存在するかなど、CT画像からその病変の質的評価を診断することができます。

PET-CTの予約について

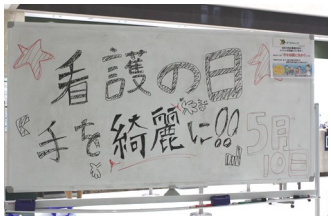
PET-CT検査の予約は、完全予約制です。事前に現在受診している医療機関から予約するか、ご自身で当院へ電話予約してください。（代表：072-958-1000 「PET-CT検診申し込み」とお伝えください。）

「看護の日」を開催しました

令和5年5月10日に「看護の日」を開催し、患者様と対面で行うのは2年ぶりとなります。

今年は、「手を綺麗に！」を目標に手の洗い方の実践講習を行いました。まず初めに、汚れに見立てたクリームを手に塗り普段の手洗いを行います。次に、ブラックライトを当て、光っている部分が汚れの残っている部分と分かります。

しっかり手を洗っていると思っていても、汚れが残っている部分が目に見えてわかるので、正しい手洗いの大切さを実感しました。



がんサロン 「白鳥の会」を開催しました

2023年5月23日 がんサロンを開催しました。

今回は、「がんと緩和ケア」について講演を行ないました。緩和ケアと聞くと、医療者の中でも誤った認識を持った方がいて、『この人は、まだ緩和ケアの時期ではないから』という発言が聞かれることもあります。一般の患者さんにも、緩和ケア＝最期の場所、もう死を待つだけ・・・といった印象があるので、まずはそうではないことをお伝えしました。緩和ケアは、病気によって起こる心と身体の苦痛を和らげ、自分らしい生活が送れるようにするケアのことを言います。今回の講演では、日本緩和医療学会が作成した動画を用いながら、具体的にどんな場面で緩和ケアが行なわれているのかを見て頂きました。

参加者の方から、がん告知直後の家族様が参加して下さり、『昨日は動揺してしまい、何も考えられませんでしたが、このような機会を頂き、色々と質問もできたので少し安心できました』という御意見も頂きました。

これからも、がんサロンを通じて、患者さん・ご家族様の心理的負担が少しでも緩和できるように継続していきたいと思います。

次回の白鳥の会は、2023年7月25日の開催です。